平和作文コンクール入賞作品発表

大崎市平和事業の一環として、子どもたちに平和に対する思いや考えを発表してもらう「小・中学生平和作文コンクール」を昨年募集したところ、小・中学生合わせて89作品の応募がありました。

審査の結果、最優秀賞には、小学生の部で西古川小学校５年佐々木志穂さんの「終戦六十一年・これからの未来」が、中学生の部では古川東中学校３年田中志歩さんの「戦争について」が選ばれました。

今回は最優秀賞に輝いた２つの作品を紹介します。

問　企画調整課政策調整係　☎23-2129

小学生の部【最優秀賞】

終戦六十一年・これからの未来

西古川小学校五年　佐々木志穂さん

私は、小学校五年生なので、戦争を知らない子供の一人です。

でも、戦争のドラマをみたり映画をみたりして、戦争がどんなにおそろしく、つらいことだったかということは、少し分かります。

家のおばあちゃんは、六十八才になります。戦争が終ったころ、ちょうど小学一年生でした。だから、あまり戦争についての記おくがないと言っていました。しかし、周りの人達から聞いた戦争があったころのいろいろな話を私にしてくれました。

例えば、学生や結こんしようとしていた若い人達が「お国のためだ」と言われ、戦地に行ったそうです。たくさんの鉄ぽうの玉やばくだんが飛んできて、「死ぬか」、「生きて帰れるか」分からない戦地に行かなければならないなんて、かわいそうだなと思いました。

また、仙台の空しゅうがあったときに、おばあちゃんが子供のころに住んでいた西古川からも、空しゅうの様子が見えたそうです。仙台からかなりはなれている西古川からも、空しゅうが見えたなんて、すごくはげしいこうげきだったんだと思います。もし、わたしの住んでいる西古川に空しゅうがあったらと思うと、とてもこわくなりました。

戦争中は、食べ物は簡単に買えずに、「配給」と言われ、決まった量の食べ物しか配られなかったそうです。だからおなかいっぱい食べられなくて、病気になった人もいたそうです。私達のようなまだ小さい子供は、なくなってしまうこともあったそうです。

食べる物がなくて、病気になったり、死んでしまう人が出てくるなんて、信じられません。私は、おなかがすくと、冷ぞう庫を開けて、「あれにしようかなこれにしようかな。」と、まよいながら、家の人が買っておいてくれていたおやつを選んで食べます。戦争中と、今の時代は、大きくちがっていたんだなぁと思いました。

私は、おばあちゃんから戦争の話を聞いて、本当にその時代に生きていなくて良かったなぁと思いました。むりやり戦争に行かされることもないし、空しゅうにおびえながら生活することもありません。

もちろん、食べ物がなくて、こまるということもありません。戦争の無い平和な生活がすばらしいことなんだなと思いました。

この平和な、あたりまえだと思っている生活がいつまでも続くように、戦争のない未来のために、今、私にできる事は、相手の事も考えて行動するという事です。自分のやりたい事や言いたい事を言うのでなく、相手の気持ちを考えてあげる事で、けんかにならなかったり、すぐ仲直りできると思います。

世界の人達と協力し、仲良くできる平和な世界を作る大人になりたいです。


西古川小学校５年　佐々木志穂さん

中学生の部【最優秀賞】

戦争について

古川東中学校三年　田中志歩さん

八月六日、なに気なくテレビを見ていたら、広島市の平和記念公園で、平和記念式典が行われた様子が映し出されていました。小さい子供からお年寄りまで、また今までの中で一番多い、三十五ヶ国からの外国人が「厳粛」に犠牲者の冥福を祈っていました。毎年、テレビで見る光景ではありましたが、いつもとは違い映像を見ながら、平和や原爆について考えてしまうことがありました。それは今年の国語の時間に習った「わたしが一番きれいだったとき」、「ごはん」や、英語の時間に習う「A Mother's Lullaby」を読み、作者の心情や情景を考えると、心に残るものがあったからです。

ある七十一才のおばあさんが、六十一年前の原爆が落とされた日のことを鮮明に覚えていました。当時、十才だったことを今もなお記憶に残っているということは、よほど悲しく、つらい思いをされてきたということが分かります。その悲しい思いを背おいながらも、私達に伝えてくれていることを知りました。

また、六十年が過ぎた今でも、原爆の放射線で苦しんでいる被爆者がいることも知りました。こんなに被害にあっていることが世界に知れわたっているのに、核兵器が今もなお他の国で作られていることや、核兵器が進化していること、ボタン一つで発射できることが、とても怖いように思えます。

戦争について、親や私は知りません。でも祖母に聞くと、曾祖父が戦争に行ってしまい不安だったこと、B二十九の戦闘機が低空飛行しているのを見たり、夜はサイレンが鳴るたびに、電球に布をかぶせて暗くし、みんなで隠れていたことなど、いろいろなことを教えてもらいました。祖母は戦争の話になると悲しそうな表情をしていました。今まで祖母とは、戦争について話をすることがありませんでしたが、この機会にいろいろと聞くことができました。子供の頃は戦闘機の音におびえ、自分達が食べる物を一生懸命に作り、苦労してきたことが分かりました。

原爆のニュースを見たり、聞いたりしているうちに、「私に何かできることはないのだろうか…？」と、考えてしまいました。それで私は、戦争中を過ごした人達の話を聞いたり、ニュースやインターネットなどを通して、戦争のことを知り「戦争によっての被害」「原爆の恐ろしさ」を年下の人達に伝えられることが、できるのではないだろうか…と思いました。

戦争を昔の話にするのではなく、伝えていくことによって、戦争の悲劇を忘れられずにいてもらえるのではないのだろうか…と思いました。

夏休み中も、北朝鮮によるミサイル発射やイスラエルのレバノンへの侵略などで、毎日ニュースが流れていました。イラクでも、まだ混乱が続いていて、たくさんの人達が犠牲になっています。家を失ったり、攻撃から逃げていたり、私と同じ年くらいの人がケガをしています。私は一日でも早く、この世界に戦争やテロがなくなり、みんなが平和に暮らせる日がくることを願っています。


古川東中学校３年　田中志歩さん

平和への思いをこめて・・・

● 小学生の部【優秀賞】

鳴子小学校６年	高橋果夢さん	爆心地、広島
古川第四小学校４年	若林誓也さん	世界中に友だちをつくりたい

● 中学生の部【優秀賞】

鳴子中学校３年	有川みゆきさん	戦争と向き合う
三本木中学校３年	湯山和佳さん	平和の中の本当の幸せ